

甲佐町オレンジ通信

令和 5 年 11 月 甲佐町地域包括支援センター

第 6 号(通巻第 86 号)

認知症の人の聲(こえ)を聞く



仙台で行われた在宅ケアの全国大会に参加してきました。その中で、認知症のある本人の聲に耳を澄ますことができました。認知症になっても、認知症になったからこそ、伝えたいこと、たくさんあります。

仙台には、認知症の当事者と関係者が本音で話し合い、学び、つくりあげていく「リカバリーカレッジ」という集まりがあります。そこでは認知症のある方と共に歩み出す一步を意識するのだそうです。以下はその中で認知症と診断されて 8 年経つ、「ほし てる子さん」本人がされたお話です。



私は、「自分でも物忘れがあるなー」と思っていたから認知症と診断されても、大きなショックはなかったよ。旦那が死んだから、自分一人で、今は暮らしています。畑仕事が好きで、土を触って草をとっているのがいいんで。ちょっとわからなくなると、近所に住む妹を呼ぶと、すぐきてくれるから助かるの。野菜を作って、近所の知り合いに配るのが楽しみ。天

気がいいとワクワクします。「畑仕事ができるー」って。「大きくなれ！大きくなれ！」と野菜を育てているのです。みんなに「私の勤務地は、畑です」っていうの。ふふふ。今は話ができる仲間もいるし、足は、昔の怪我で義足を履いているけど、歩けるし、口は達者で、できることもあるし、心配することないねって、周りの人も言ってくれるの。今困っているのは、畑にくる動物ね。熊とか、猪とか、今、家の柿にくるのはハクビシンね。鼻が白いやつね。戦っているのよ。はは。

夕方まで時間わからなくて畑で仕事をしてると、通りかかった知り合いが、「てる子ちゃんは、もう帰りな」って言ってくれるのさ。知り合いはね、自然とできるよ。一、二回は話さないけど、三回、道ですれ違ったら挨拶するし、その後は知り合いだよ。ふふ。



明るい笑顔のてる子さん、なんだか、お話を聞いていたら、甲佐町の農村のおばあちゃんたちのことを自然と思い出していました。地域や暮らしが良くて、自然なサポートがあれば、こんなに明るく生きられるのですね。

甲佐町地域包括支援センターでは、6月から月に1回、全10回にわたって認知症に関する情報「甲佐町オレンジ通信」を発行します。



お問い合わせ先
甲佐町地域包括支援センター
(甲佐町役場 福祉課)
TEL 234-1114